

調査研究終了報告書

研究分野：ダイオキシン類，有害化学物質に関する研究

調 査 研 究 名	底質中のダイオキシン類の処理に関する研究
研究者名（所属） ※ ○印：研究代表者	○大野健治，松枝隆彦，黒川陽一，飛石和大，北直子，桜木建治（計測技術課）， 馬場義輝（水質課），石黒靖尚（病理細菌課）
本 庁 関 係 部 ・ 課	環境保全課
調 査 研 究 期 間	平成14年度 — 15年度 （2年間）
調 査 研 究 種 目	1. ☒ 行政研究 ☐ 課題研究 ☐ 共同研究（共同機関名： ） ☐ 受託研究（委託機関名： ） 2. ☐ 基礎研究 ☒ 応用研究 ☐ 開発研究 3. ☐ 重点研究 ☐ 推奨研究 ☐ ISO推進研究
ふくおか新世紀計画 第2次実施計画	大項目：快適で潤いのある循環型社会づくり 中項目：地球的視野に立った快適環境の保全と創造 小項目：快適な生活環境の保全
福岡県環境総合基本計画	柱：生活環境の保全 テーマ：土壌環境の保全
キ ー ワ ー ド	①ダイオキシン類 ②分解 ③底質 ④処理技術
研 究 の 概 要	
1）調査研究の目的及び必要性 大牟田川河川水のダイオキシン類による汚染原因は，大牟田川の川底に堆積した底質からの溶出であり，底質汚染状況も明らかになってきた．大牟田川の汚染防止のためには，汚染底質を撤去することも必要となり，その場合，撤去された汚染底質の処理が重要な問題となる．そのため大牟田川の底質の汚染状況を把握するための調査と並行して，ダイオキシン類の分解に関する処理技術の情報を収集し，大牟田川の底質に適用可能な処理技術を検討することを目的とする．	
2）調査研究の概要 ①ダイオキシン類の処理技術に関する情報収集，整理 ②ダイオキシン類土壌汚染対策地等の現地調査 ③企業が有するダイオキシン類処理技術の評価	
3）調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください） ①国内のダイオキシン類処理技術を有する企業及び技術をインターネットや文献から検索，各企業が保有するダイオキシン類の処理技術に関するアンケート調査を実施し，評価した（平成14，15年度）． ②横浜市鶴見川遊水池ダイオキシン類汚染土壌対策工事現場などのダイオキシン類土壌汚染対策地を視察し，汚染対策の実態を調査した（平成14年度）． ③間接熱脱着工法やDCR脱ハロゲン化無害化工法などの汚染処理技術を現地調査した（平成15年度）．	
4）県民の健康の保持又は環境の保全への貢献 大牟田川のダイオキシン類による汚染底質の処理は，地域住民の健康被害防止，地域環境の保全の観点から重要であり，汚染対策を実施するに当たっての処理工法検討の基礎資料になる．	
5）調査研究結果の独創性，新規性 ダイオキシン類による底質・土壌汚染に関して，無害化処理まで実施している例は全国的にほとんどない．ダイオキシン類の無害化処理に関してどのような処理技術があり，また，どの処理技術が大牟田川の汚染底質の処理に適用できるのか検討，評価した．	
6）成果の活用状況（技術移転・活用の可能性） 大牟田川の底質の汚染状況を把握するための調査が進行し，汚染の状況が明らかになってきた．今後，ダイオキシン類汚染対策が必要となるが，大牟田川中流域ダイオキシン類対策工法の検討に利用できる．	

終了報告論文を143頁～144頁に掲載しています．